

# 8/22 うすき人権文化セミナー 研修報告

## 白杵市 社会教育委員だより 第六号

8月22日に行われた公民館事業の「うすき人権文化セミナー」を社会教育委員の皆さんの研修と位置づけ、ご参加いただきました。参加いただいた委員の皆様ありがとうございました。講師に詩人・エッセイストの豆塚エリ(まり)がとうごいさんをお招きし、「生きづらいつらい世界で共に生きるために」をテーマにお話いただきました。

「本人が高校生時代、居場所がないと感じ、自殺未遂を経験したこと、その後治療リハビリをしていく中で気持ちの変化がら取り組んでいる、豆塚さん自身の現在の「居場所」のお話などを大変穏やかな口調でお話いただき、あつという間の1時間30分でした。

### □講演の概要(資料:発言の一部を抜粋)

#### 【自殺未遂に至る経緯】

○家族との関係  
母親から「強い人間になりなさい。将来は医者か弁護士にと強い期待をされていた。それに答えなければと頑張っていた。義父との関係性が良くない。家庭では息が詰まる状況。

#### ○学校での様子

褒められたい、認められたい気持ちが強いのので、勉強は頑張っていた。友達との人間関係は苦手という認識はあるが、人の役に立つことで人間関係を構築するため、生徒会や部活動など積極的に頑張った。家にいるよりは楽。

#### ○自分で自分を苦しめる思い込み

人に頼ることは迷惑なこと。自分のことは自分でやらなければならぬ。誰かに助けを求めたら屈辱的なこと。

弱さは恥。強くあらねば。自分はいろいろな存在。価値ある人間になれないなら死んだ方がいい。

#### ○限界を感じた高校時代

進学校で授業についていけず、朝起きれなくなり学校を休む。それを母に叱られ「居場所がない、ついにこの日が来た」と、居ても立っても居られずアパートから飛び降りた。死ぬしかない。死にたいわけではなくそれしか選択肢が無いという感じだった。

#### 【自殺未遂・治療】

飛び降りた直後は、死ななくてほっとしていた。生死をさまよう治療は、苦しくて辛かったが、「死にたい」とはなぜか思わなかった。私が殺そうとした身体が私に生きろと言っている。と感じた。

#### 【リハビリ】

気管切開をして声が出ないので、「すみません」の代わりになるべく笑顔を向けるように意識した。人に頼ることは迷惑・負けだと思っていたが、笑うように努力していると自然と「ありがとう」の気持ちが出てくるようになった。そして、頼ることを喜んでくれる人もいることを知る。

リハビリの成果が出ない時、やる気を失っていた私に「できないならもうろん周りの人に頼っていいけど、できなくて困るのは自分自身だよ」と理学療法士の先生から言われた言葉が印象に残っている。リハビリが「自分ごと」になる瞬間だった。

支援してくれたソーシャルワーカーさんが「豆塚さんはどうしたいのか」を最優先に一緒に計画を立ててくれたおかげで自分の人生が「自分ごと」に。

様々な経験を経て豆塚さんが思うこと…

#### 【自立とは】

頼ることは甘えではなくむしろ人を頼って生きていることに無自覚なことこそが甘え。

自分の至らなき、欠点を認め、上手に人を頼ることこそ本当の自立。

#### 【他者を仲間と思えたらそこに居場所ができる】

○子どもが感じる生きづらさ…大人は子どもを半人前扱いしコントロールしようとする一方、結果は自己責任として本人に押し付けているのでは?

競争を煽り立てられ、勝つことが良しとされる。居場所には味方が必要なのに、周り自分を比べてしまう。周りが敵ばかりになってしまう。

○居場所とは…他者の多様な価値観に触れ、規範意識や価値基準を相対化させることができる。そこに居場所ができる。(多様性に触れる機会が大人よりも子どもは少ないと経験上感じる。考え方が固定化すると昔の自分のように孤立してしまう。)

居場所とは見栄を張ったり背伸びしなくていい生活空間。

#### 【その後の家族との関係】

母に期待している自分、褒めてくれる、認めてくれる)に気がつく。母に対する苦意思識を認め、母なりの価値観があることを認め、随分と気が楽になった。

#### 【私のことは私が決めていい】

社会規範の中にある「幸せ」をなぞるしかないから、苦しい。当事者であることを認め、語ることによって、ようやく、自分だけの物語、自分なりの幸せの探求が始まるのではないか。

「寄り道が居場所につながる社会へ」  
うまくいったりいかなかったりを繰り返した先に、自分にとっての居場所が見つけられる社会になっていくことを願っている。

#### ★受講者アンケートより

▽子どもを育てるうえで、接し方等悩むことが多かったけど、私の苦しさではなく、子どもの苦しさを考え接しようと思えたセミナーでした。

▽「殺そうとした身体が生きている」ということに気づくことはすごいことだと思う。経験して、自分なりに分析されて、我々に伝えてくれて、自殺する人の気持ちがいさし理解できた気がする。

▽自分は我が子に対して、今のところ過度な期待はしていませんが、自分の当たり前は子どもにとって当たり前ではないことを肝に銘じ、押し付けられないようにしなくてはならないと改めて感じました。豆塚さんの苦しかったこれまでの生き方も、今のアクレシティブな生き方も、素敵だと感じました。



□ 当日のセミナーではテレビ局の密着取材が入っていました。興味のある方はご覧ください。



委員皆さんの考える、「子どもの居場所づくり」の活動のヒントになれば幸いです!